43 歳で認知症に　やっと分かった「希望」の意味
仲間と今を歩む

　肩の力を抜いて不安を口にできる「場」があったらどんなに楽だろう。認知症の当事者にとって、そんなよりどころが、東京都八王子市にある。
　2022 年の秋、初めて訪れて落ち着かない様子の高齢男性に、さとうみきさん（47）が声を掛けた。「私も認知症って診断を受けています。43 歳の時でもうすぐ４年になります」。緊張を解きほぐすような、優しい口調。「年齢、分かっちゃいましたね」と付け加え、笑いも誘った。認知症と診断された当事者が、目の前で笑顔を見せることはどれほど心強いことか。会場の雰囲気は明るく、こわばっていた男性の表情は徐々に穏やかになっていった。（写真左から４番目が、みきさん）

　この集まりは、さとうさんが代表を務め、同市などと手掛ける「おれんじドアはちおうじ」。仙台市で始まった取り組みを参考に 21 年３月にスタートした。（略）
　さとう。さんが、認知症に気付いたきっかけはドラマ。ガス業者が自宅に来る予定を覚えていなかったり、買い置きがあるのに犬の餌を注文したり。戸惑うシーンが自分にも当てはまり、検査を受けることにした。（略）19 年１月に医師から告げられたのは、若年性アルツハイマー型認知症。とてつもないショックだった。インターネットで検索すると「5～7 年で寝たきり」といった内容が目に入る。私の人生は終わった……。絶望して家に閉じこもる暮らしが半年ほど続いた。（略）生まれ育った東京都八王子市にあるデイサービス「DAYS　BLG！はちおうじ」だ。「良かったら一緒に働いてみませんか」。丹野さんとの出会いなどからつながった守谷卓也代表（53）にそう声を掛けられ、自分の耳を疑った。「認知症と診断された私が働いていいんですか？」

　古い一軒家を改築したBLGは昭和の雰囲気があり、笑い声があふれていた。そして画一的な運営ではなく、仲間として「メンバー」と呼ぶ利用者一人一人の思いや、やりたいことを大切（略）

記事は、毎日新聞2023.1.22朝刊から抜粋。写真は、地域で活躍する方々をゆき撮影